

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十一月度 入選句（投稿総数二千五百七十一句・一般投句数九百句）

選者 長野 美代子

### 特選

吟行や釣瓶落しの日を追はれ 大垣市 岡田 あや子

暑い夏も過ぎ秋となり、さあ吟行にと心躍らす日々となる。が仲々と出掛ける日も少く、思い切り山（寺）へと出るが日に日に陽も短くなり、四時頃になると何となく浮足立って来る。「日に追はれ」の下五にしっかりと臨場感のある言葉を据えたところにこの句は成功していると思う。

隈取りの老いに目力村芝居 大垣市 大西 誠一

秋の取り入れも過ぎ神様に豊作の感謝を込め秋祭りをする風習も昔より続けられている。村もお年寄りが今も絶やさぬ様ガンバっている。今年も若い者に負けず行う村芝居。「老いに目力」この表現に私共も奮い立ちます。格調高い句に感銘す。

病室の母へこっそり栗ご飯 大垣市 杉崎 郁子

私もこうでありたいと思う。今の世の中何事も希薄になり、悲しいことも多々あります。娘がお嫁さんでしょうか、優しい心使いにとでも嬉しくなります。お母さんがおいしそうに召し上がっておられる姿が目には浮びます。秀句が出来ましたね。

三人三様素敵な御句を楽しませていただきました。

### 秀逸

秋草を活けてもてなす茶房かな 大垣市 川瀬 芙沙子

旅先の新涼詰めて足軽し 大垣市 松村 久子

秋舞台般若の下の素顔かな 京都府城陽市 古根 洋子

新藁の匂い残れる野良着かな 大垣市 鶴田 信子

山間より網を投げたし罫雲 安八郡神戸町 大槻 恭子

手にひろふ石にあづけし秋思かな 大垣市 秋山 くに子

穏やかな日の過ぎ易し桐一葉 大垣市 日比 昌子

舌鼓打つ新米の塩むすび 大垣市 棚橋 みさを

縁側にボール転がる小春かな 大垣市 傍島 隆

古舟のもやい解かれぬ冬の川 東京都立川市 堀江 孝晴

入選

秋高し空より青き伊吹山  
 静けさにつまぐれないのはぜる音  
 秋高しキリンの顔のなお高し  
 秋の日の玄関翳りゆくはやさ  
 草紅葉錆びし鉄路の途切れけり  
 今昔の旅籠の灯一茶の忌  
 秋耕の終へて安堵の湯槽かな  
 草紅葉うもれて寂し石仏  
 大小の垂水の白さうす紅茶  
 秋の川鯉の隠れ家もやい舟

大垣市 名和三津子  
 大垣市 杉崎寿美  
 京都府城陽市 八田弥須子  
 安八郡輪之内町 野村照子  
 大垣市 中西映衣子  
 大垣市 中山あや子  
 大垣市 川瀬喜梅古  
 大垣市 大角信華  
 大垣市 大角信華  
 各務原市 平岡慶将  
 三輪千芽

入選

影ゆれるたたずむ芭蕉秋の暮  
 秋思ふ色こそ匂へ草木染  
 銀杏や観鳥台へ湖の風  
 目も鼻も萩にかくれし石仏  
 刈田あと伊吹の山をより高く  
 新らしき絵馬二つ三つ神の旅  
 色鳥来一瞬羽音して小径  
 金生山岩肌かくし紅葉せる  
 小菊さす樹下は小暗き芭蕉塚  
 綿虫の妙なる姿門を出づ

岐阜市 桐山遥美  
 愛知県江南市 川瀬清  
 不破郡垂井町 服部智恵  
 大垣市 平野きぬよ  
 大垣市 宮脇和子  
 大垣市 安部芳枝  
 大垣市 坪井克枝  
 大垣市 神野武彦  
 大垣市 田中雅子  
 大垣市 北浦典子

選者吟

折れ枝に羽毛の残る小春かな

美代子